

平成30年度「新霊合祀慰霊祭」の御報告

平成30年度の「新霊合祀慰霊祭」を11月3日（金）、附属幼稚園遊戯場で開催しました。本年度は、来賓として学部から学部長以下5名、本庁会顧問2名、地区会長5名、評議員4名、9遺族（13名）、会員49名、本部15名、中学校合唱部と顧問25名という参加でした。年々、会員遺族の参加が減ってきているのが気になっています。

会の模様を写真を中心に御報告いたします。

1 開式のことば（平原博子副会長）



2 祭主合祀新霊進奏（平成30年度の合祀者61柱）



3 黙 禱



4 招魂祭の歌（指揮：石川優子幹事）



5 会長慰霊の詞（前田 稔会長）



菊薫る、今日のこの日、ご遺族をはじめ、ご来賓ならびに木犀会会員参列のもと、母校宮崎大学教育学部附属幼稚園の遊戯場を斎場として、平成30年度新霊の御霊に対し、謹んで慰霊の言葉を申し上げます。

母校の跡地に安置されております招魂の碑は、そばにそびえる金木犀の木から見守られ、毎年輝くばかりの金色の花や、そのふくよかな香りとともにいつも優しく祀られております。その金木犀が先の台風24号の強風にあおられて七本立らの幹が五本、無残にも根元から折れてしまいました。我々木犀会のシンボルとして長くその姿を見せていただけに残念でなりません。しかし2本残ったことを良しとしたいと思います。基本的には非常に強い花木ですので必ずや新芽が発芽することを期待しているからであります。

ここに含祀されました御霊は、先ほどご芳名を申し上げましたとおり、61名となりました。私たちが会員は、お一人おひとりのご芳名に接するごとに、看護に身も心も捧げられたご遺族の限りない寂しさや悲しさと思い、その心情に心揺さぶられながら、哀惜の情が万感胸に迫っているところでございます。

この斎場設営は私たちが会員とともに、大学附属幼稚園のご厚意により、附属幼稚園職員・保護者の皆様の献身的なご協力によってなされました。これは今も変わらない母校愛と母校に学んだ者同士の強い絆の成せる証しであると確信しております。

母校は、遠く学園木花台に移転して20数年になります。その際、旧教育学部にありました金木犀の木を株分けし、記念樹として教育学部周りに植栽されたと聞いております。母校が遠く離れましても、営々と築かれた絆は金木犀の木を通して脈々と引き継がれています。

現在、宮崎大学は木犀会との百有余年の伝統を継承しながら、「地域に根差した大学づくり」をモットーに平成28年4月より、「教育文化学部」から「教育学部」に生まれ変わりました。中でも宮崎大学の五学部が連合した「宮崎大学同窓会連合会」が結成され、毎年、卒業生が大学に集う「ホームカミングデー」、が「創立330記念交流会館」にて今年も来る平成30年12月15日に举行される予定です。今年はその実行委員会と教育学部が主宰することになっております。その意味からも我々木犀会会員にも例年にも増して積極的な参加が求められております。是非とも現宮崎大学に足をお運びいただき、新旧の絆を固めたいものです。昨年は学生の研究発表等がなされ、現在の学生諸君の生きざまを目の当たりにしました。その発表を聞いた時、これからの母校の歴史に明るい未来が拓かれるものと確信いたしました。母校の発展に寄与すべく会員一丸となって協力・支援することを誓い、会員の積極的な参加を期待いたします。このような取り組みは、また、御霊から私たちに託された願いでもあると信じております。そのご期待に浴えるよう日々精励することを御霊の前にお誓いいたします。どうぞ、天界より見守っていただき、よろしくお導きください。

最後に、すでに招魂の碑に収められておられます御霊におかれましては、ここに含祀されます新霊を、温かくお迎え頂くと共に、母校のゆるぎない発展と木犀会の一層の充実を見守ってくださいよう心からお願い申し上げます。

それでは、改めて、御霊の御安らかなることとお祈りしながら、ご遺族の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念し、慰霊の詞といたします。

木犀会会長 前 田 稔

6 遺族代表追悼の詞 (佐々木てる子様御遺族 佐々木統一様)



本日は新霊合祀慰霊祭を催して頂き誠に有難く、本厚会並びに事務局の皆様方に心より御礼申し上げます。

本年度の合祀者の遺族を代表しご挨拶を申し上げます。

故人 61 柱は夫々の異なった道を生きてこられました、ここに本厚会会員として合祀いただくことは当人はもとより遺族の私達にも誇りであり感謝にたえないところであります。

夫々の遺族が故人を偲び、その人生を思い、語りつつ参加しているものと思われまします。

97 歳で他界した母の葬儀の日、会場受付に掲示してあった新任早々のクラス集合写真を見ていた人が『イジメに遭っていた転校生の自分を陰に日向に庇い見守り、父兄も含め教諭しそれ以来すっかり皆と馴染め明るい小学校生活を得た。自分も先生の様になりたいと決心し教職の道に進み校長まで勤め上げた。今、米寿ながら先生には感謝しきれない』と感涙におぼれ泣きして居られました。

僅か3年の教師生活でしたが教職とはこんなにも他の人生に影響する存在であり、又私の知らない母の教師として、人としての一面を垣間見た思いでした。

本日の慰霊祭に参加させていただき同門同学の志に会い新霊者、遺族共に心の安らぎを得ることが出来ました。

最後に、本日も多用の中にご臨席いただきました来賓の皆様方、本厚会員の皆様方の温かいお心遣いに私ども遺族一同深く感謝申し上げます、又ご多幸を祈念してお礼の言葉いたします。

平成30年11月3日

遺族代表

佐々本統一

7 献花

○藤井良宣教育学部長

○安田 繁木厚会顧問

○川崎満也日南支会長

○柏木幸雄宮崎市議員



○御遺族の皆様



8 送魂追悼の調べ（附属中学校合唱部「千の風になって」他）



9 閉式のことば（橋口玄郎副会長）



○ 偲ぶ会



【 慰霊祭の反省と御意見 】

- 会場はこじんまりとして良かったが、座席のゆとりがなく、動きがとれなかった。
- 進行はとてもよかった。特に附属中の合唱は感動した。
- 弁当に「おしぼり」が付いていなかった。ふたを開けたときに見栄えが良くなかった。
- 参加者が少なくなってきた、学年のつながりが大切だと思った。
- 遺族の方々への気配りは十分だったのでしょうか。（映像などがほしい）
- 「偲ぶ会」で、早々と席を立たれる人が多いのが気になる。

※ 「新霊合祀慰霊祭」が終了し、次は2月16日（土）の「創立記念同窓会」です。多くの会員の先生方の参加を期待して準備を進めていきます。（文責：事務局長 熊本 新一：49卒）